

新穀感謝祭 成井理事長挨拶

「新穀感謝祭」、おめでとうございます。

初雪の便りが届き始め、冬の足音が近づいてくる極月となりました。

只今、私どもは、命の糧を賜ったことへの感謝をお捧げするみ祭りを執り行わせていただきました。

今年も、自然農法産の作物や様々な紹介パネルが展示されています。

度重なる台風の到来など、農家の皆さまにとりましてご苦勞の多い一年だったと思いますが、自然農法・自然食による救いに努めてこられた全国の皆さまに感謝申し上げます。

そして、同時に、いついかなる時も私どもを天国に迎え入れるために、大きく深い愛によって守り養い育ててくださいました主神に、皆さまと共に心からの感謝を捧げさせていただきたいと思います。

私は、教主様が作成してくださり、本日の祭典で奏上された「新穀感謝祭祝詞」を通して、大切なことを心に刻ませていただきました。

私は、命の糧について、自分の外側にあるものと思い込んでおりました。「新穀感謝祭」とは、目に見える御初穂を感謝を込めてお捧げするみ祭りであると認識しておりました。

主神に心からお仕えになった明主様のみ心をひたすら求めご教導^{わけみたま}くださる教主様は、私どものうちにある魂が、「メシアの御名」にある主神の分^{わけみたま}霊であることを繰り返しお伝えくださっています。

また、私はご教導を通して、命についても、主神の永遠の命を自らのうちにいただいているからこそその命であると気づかせていただきました。

さらに、自らの意識についても、主神が私どもを子どもとしてくださるためにお使いになっている大切な意識であることを教えていただきました。

こうしたご教導を通して、私は、本当の命の糧とは、自分の内側に存在しておられる主神とそのみ旨であると思わせていただけました。

ですから、私は、本日の「新穀感謝祭祝詞」に記されていますように、本当の「新穀感謝祭」とは、この年の御初穂と共に、神様の子どもたるメシアとして新しく生まれるための養いを賜っている私自身を、感謝をもってお捧げするみ祭りであると深く心に刻ませていただきました。

そして、今日からまた一年、“主神の全く新しい救いのみ業”の中に置いていただいている喜びを忘れず、明主様と共にあるメシアの御名にあって、より一層心を含めてお仕えさせていただく決意を捧げさせていただきました。

先程は、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇布教所の〇〇〇〇さんが感謝奉告をしてくださいました。ありがとうございました。

〇〇さんは、ご家庭の中に起こる様々な事柄をはじめ、すべてのご神業奉仕の場面で、“想念の御用”をもって自らのうち生きておられる神様に心を向け、すべてを委ねつつ、明るく、楽しく、心裕かに過ごされているお話をしてくださいました。

私どもも、ご自身の子どもとして天国に迎え入れてくださるという神様のみ旨が込められた「メシアの御霊」が、どのような時も自らの内側に輝いておられることを信じ、“想念の御用”に努めつつ、“主神の全く新しい救いのみ業”にお仕えさせていただきたいと存じます。

さて、私は、教主様を先頭に5,300名の皆さまと共に、真に尊い「メシヤの御神」の御名を奉称させていただいた「秋季大祭」の喜びと感動を今もって忘れることが出来ません。

昨年2月、いつのめ教団「立春祭」において、教主様は、明主様のみ教えの神髓をお受けする「全く新しい信仰」を貫く不退転の覚悟を持たれて、ただお一人から立ち上がってくださいました。

今年1月には、①之光教団は、包括責任役員会を詐称する人たちによって、メシアとして新しくお生まれになった明主様に倣おうとする「全く新しい信仰」が教義に反するという不可解な理由をもって、一方的に包括・被包括関係を解除する、つまり、離脱教団と見做すという理不尽な事柄を突き付けられました。

しかしながら、私どもは、明主様ご昇天から六十数年の時を経て、明主様が人類の救いにとって極めて重大なこととしてお示しになった「メシアの御名」の真実をお受けする「全く新しい信仰」に出会えたことに、心からの誇りと喜び、そして、未来への夢をもって進ませさせていただくことを選択させていただきました。

そして、5月には、いつのめ教団にあって、どこまでも教主様とひとつ心で進む意思表示を明確にされた、白澤代表を中心とする方々がいつのめ教区を立ち上げられ、力強い連携・協働の道が開かれました。

このようにして、教主様と、教主様とひとつ心で歩まれているまゆみ奥様、教主補佐の真明様・マミ様ご夫妻のもとに、岡田宗家の方々をはじめ、②之光教団といつのめ教区、さらには東方之光教区の方も参集し、10月には5,300名が集う「秋季大祭」が実現致しました。

同時に、遠く海外各地においても、教主様とひとつ心で明主様の本当のみ心をお受けしたいという方々が次々に立ち上がり、「全く新しい信仰」の灯は燎原の火の如く世界中に拡がりを見せ、こうした中で、先般の「教主様韓国ご巡教」が実現致しました。

また、教主補佐の岡田真明様は、先般のドイツご出向に続いて、今、オーストラリア教会からの要請を受け、教主様のご名代として赴かれています。真明様は、「メシアの御名」の真実を普く世界にお伝えする全く新しい世界布教の道を切り開いてくださっています。私どもも是非後に続かせていただきたいと思います。

そして、一方に目を転じますと、岡田宗家に縁もゆかりもない渡瀬信之なる人物に岡田姓を名乗らせ五代教主と詐称し、その事実を3ヶ月以上も信徒に伏せたままご神業を進めていた東方之光(MO A)やいつのめ教団小林執行部、聖地直結の会の人たちの真の姿も浮き彫りになってまいりました。

私は、今、神様が、すべての人に様々な役割をお与えになり、すべての人をお使いになって、「地上天国建設」「人類救済」のために欠かせない「メシアの御名」の真の受け止めへと、分け隔てなくすべての人をお導きくださっていることを確信致しております。

そして、すべてのものと共にという思いを忘れず、感謝と喜びと未来への夢をもって一途に進ませてもらいたいと存じます。

先般、私は、いつのめ教区代表の白澤道夫先生のご配慮をいただき、「教主様韓国ご巡教」の随行団の一端に加わらせていただきました。

韓国世界救世教は、この度の教団浄化に際して、海外でいち早く教主様と共に歩ませていただく意思表示を明確にされた宗団であると伺っております。

折しも、韓国本部創立30周年という節目の時に、教主様ご巡教を許され、ユン本部長をはじめ、専従者、信徒の皆さまの心からの喜びに満ち溢れたご巡教となりました。

「韓国本部三十周年記念信徒大会」には、韓国全土をはじめ、ハワイ、ドイツ、モンゴル、日本からの参拝団も含めて600名以上が参集し、教主様とひとつ心で「全く新しい信仰」の道を歩む感謝と決意いっぱいの大会となりました。

私は、海外において、教主様のお側に一週間置いていただく中、とても大切なことに気づかせていただきました。

私は、今年大きく揺れ動いている教団の状況の中に、何か大切なものが創

造されていると受け止めておりましたが、この認識は充分ではないことに気づかせていただきました。

韓国での一週間を通じて、私は、神様が、もう既にものすごいスピードで、新しい段階の創造のみ業を世界中の至る所でお進めになっていることを強く感じさせていただきました。

明主様は、破壊と建設が同時進行である旨み教えてくださいましたが、私の心は破壊の様に思える出来事に引きずられ、本当は、創造のみ業の中ですべてが現れていることを受け止めていなかったことに気づかせていただきました。

そして、どのような状況にあっても、私は、今、“主神の全く新しい救いのみ業”という未来に向けての希望に満ちた創造のみ業の中に置いていただき、お使いいただいていること、これが私の本当の立ち位置であることに気づかせていただき、心からの感謝と悔い改めの心をもって神様にご奉告させていただきます。

教主様は、先般の「秋季大祭」において、

私どもは、主神の創造のみ旨にお応えするために、主神の子たるメシアとして新しく生まれ、主神と共に天国に住まわせていただくこと、すなわち、“自らの意識の中心に地上天国を建設する、ことを目標に定め、明主様がお示しくくださった新しい段階の救いのみ業に、すべてのものと共にお仕えさせていただきますよう。

と、このように私どもに力強く呼びかけてくださいました。

私は、この呼びかけについて、明主様が教主様を通して「天国の福音」を宣べ伝えてくださった御言葉であると固く信じます。

私は、この「天国の福音」を“ハイ、確かに受け致しました”と大きな声で明主様にご奉告申し上げます。

そして、「真善美」配布を力とする「会う・聞く・浄霊」を中心に、一人でも多くの方々に「メシアの御名」の真実をお伝えする「全く新しい布教」に精魂込めてお仕えさせていただくことをお誓い申し上げます。

最後になりますが、私どもは、今月23日に、①之光教団といづのめ教区、そして、東方之光教区の皆さまと共に教主様のご出座を仰ぎ、「ツインメッセ静岡」において、「秋季大祭」と同じく5,000名規模で「明主様御生誕祭」を執り行わせていただきます。

私どもは、全人類と万物と共に「夜昼転換」と「メシアの御名」の真実をお受けになった明主様の御生誕を、心からお祝い申し上げたいと思います。

そして、明主様を模範として、教主様とひとつ心で、神様の子どもたるメシアとして新しく生まれる道を継承させていただく意思表示をもって臨ませていただきたいと思います。

同時に、私は、今世界中に現実に拡がりつつある、主神の新しい段階のご神業にお使いいただきたいのですという心を込めて、真心の「御生誕祭特別献金」を捧げさせていただきます。

私どもも、「メシアの御名」にある世界布教の一端を担わせていただくご神業奉仕に、大いなる感謝と希望をもって参画させていただきます。

私どもは、どこまでも教主様とひとつ心で、明主様の「世界救世(メシヤ)教」開教のみ心を求めて、「御生誕祭」を新たに始まる2019年のご神業奉仕のスタートとさせていただきます。ありがとうございました。